

浦しま子と海の友達

< 竜宮城、宴会後 >

浦しま子が乙姫と亀と話している

しま子 あのお、乙姫様、お話が・・

亀さんもそのまま一緒に聞いてください

私、亀さんがプラスチックの網に絡まって歩けなくなっているのを取ってあげて、それでここに連れてきてもらって

亀 その節は本当にありがとうございました。私、動けば動くほど網が絡まってしまい途方にくれていました

しま子 いえいえ、それは全然いいんです。あれは私たち人間のせいですから。

亀 あなたがあんなわかりづらい岩の陰まで歩いてきて私を見つけてくださらなかったらと考えると恐ろしいです

しま子 私、あの辺に引っ越してきたばかりで。

あの日、学校で体育祭のダンスのチーム分けがあったんだけど、みんな仲のいい子同士パパッと組んじゃって。後から人数の足りないチームに入れてもらえたけど、なんとなく寂しくなって・・まっすぐ家に帰る気分になれなかったんです。

なんでこんな所来ちゃったんだろう、こんな所大嫌いって思いながら、やみくもに海岸を歩いてたら、亀さんがいたんです。

それで、はじめてここ、竜宮城に連れてきてもらった時は本当に驚いて、こんなに綺麗で楽しい場所がこの世界にあったのかって。

たくさんたくさん良くしてもらって、ご馳走してくれたり踊ってくれたり、すごーく楽しかったしずっとここにいたいって思ったりもしたけど、お母さんやお父さんも心配してるだろうし、そろそろうちに帰ろうかなって思うんです・・・

乙姫 ずっとここにいたらいいのに

しま子 はい、ありがとうございます。でも、私、高校受験も控えてまして、

乙姫 受験？

しま子 はい。そろそろ戻らないと大変なことになりそうで

乙姫 そう、大変なのね

しま子 はい

乙姫 ここにいたら、その受験だってやらなくていいし、ずっと楽しく暮らせるのよ

しま子 はい、それはそうなんですけど・・

乙姫 それでも帰りたいの？

しま子 はい、それでも・・

乙姫 わかったわ。あなたがいなくなるのはとても寂しいけど、どうしてもなら仕方ないわね。亀、ほら、あれを！

亀が玉手箱を持ってくる

しま子 あの！それ、いりません！

乙姫 え？

しま子 だってそれ、おじいさんになっちゃうやつでしょ？

乙姫 おじいさんに？

しま子 私の場合はおばあさんか。それ、持って帰って開けちゃうと中から煙が出てきていっきに歳をとっちゃうのでしょうか？

乙姫 ですから私たちは、決して開けてはいけませんよ、とここでお約束をするのです。

しま子 でも、決して開けないでと言われると、人間は開けたくなるものなんです

乙姫 そうなの？

しま子 そうなんです！昔話の浦島太郎だってそうだったでしょ？だからいりません！

乙姫 でも、ただあなたを帰す分けにはいかないわ

しま子 いえ、十分ご馳走もいただいたし、楽しませていただいたし

乙姫 そうね、でもあなたがあなたの世界でまた苦しみながら過ごすのが心配なのよ

しま子 それは・・・ちょっとはそういうこともあるかもしれないけど、

乙姫 そのために玉手箱を持って行って欲しいの

しま子 そのための玉手箱？

乙姫 ええ、玉手箱にはあなたがあなたの世界で苦しむことなく暮らすためのお守りが入っているの。開けさえしなければ、あなたを守るのよ

しま子 でも私、開けない自信がないし・・・お守りなくても大丈夫です！少しくらいの嫌なことならあったってきっと大丈夫なような気がします。

乙姫 本当に？

しま子 はい

乙姫 でもやっぱり心配だわ、ねえ、亀。

亀 ええ、心配です

しま子 わかりました！それじゃどうでしょう！代わりにあなた達を私の場所に招待するっていうのはいかがでしょう？

乙姫 私たちを？

しま子 はい、それで、私の世界も結構楽しいんだということを見て欲しいんです。そうすれば安心出来ると思うし

乙姫 なるほど、それは少し見てみたい気もするわね

しま子 私、いろんな場所に案内します

乙姫 でも、私がここを留守にする分けにはいかないのよ。私あつての竜宮城なの・・・。

そうだわ、タイ子！ヒラメの助！タコ丸！

三人がくる

乙姫 あなたたち、しま子について行って人間の世界を見てくるのよ。そして、しま子がそこできちんとやれそうなら玉手箱は渡さず、しま子に玉手箱が必要なら渡して帰ってくるのよ。

タイ子 人間の世界に？

しま子 そうだ、タイ子この前言ってたじゃない？私のこのリボン見て、こういうの欲しいって。こういうのたくさん売ってるところあるからそこ行こう！

タイ子 へえー、行ってみたい！

しま子 ヒラメの助は人間の世界の食べ物に興味があるって言ってたね

ヒラメの助 うん、そう、俺、食べたことないものを食べてみたいんだ
 しま子 食べ放題に行こう！
 ヒラメの助 楽しみ！
 しま子 タコ丸、あんたは海の上、陸を超えて空がどうなっているか気になるって言ってたね
 タコ丸 うん、僕は空を近くで見たいんだ
 しま子 じゃあ、スカイツリーに連れて行ってあげる。
 タコ丸 わあ、なんだろうそこ
 しま子 乙姫様！どうでしょう
 乙姫 決まりね。それじゃあ、亀、4人をあちらの世界へ運んであげて
 亀 かしこまりました

亀、しま子とタイ子とヒラメ助とタコ丸を乗せて、人間の世界へ！

<ショッピングモール>

しま子 最初はここよ、ショッピングモール！
 タイ子 わあ！人がいっぱい！
 しま子 今日は日曜日だから、みんな家族や友達とここにくるの。ここに来ればなんでも揃う。病院や銀行だってあるの。
 ほら、中央のエスカレーターを上がりながら見渡せばたくさんのお店！
 ヒラメの助 あひらひらしたのがたくさんある所は？！
 しま子 あそこは洋服屋！色とりどりの婦人服、グレーや青の紳士服、パステルカラーの子供服
 タコ丸 あの木で出来た箱がたくさん並んだ所は？
 しま子 家具屋さん！あれは筆筒、あっちはテーブル、こっちはベッド。私の勉強机もここで買ってもらったの
 タイ子 あひらひら明るくて音がたくさんする場所？
 しま子 ゲームセンター！私はあそこにある太鼓をたたくゲームが好き
 タイ子 え？！
 しま子 違う違う、タイ子じゃなくて太鼓、叩く楽器のほう
 タイ子 なーんだ、よかったあ
 しま子 タイ子が行きたいお店はここ！3階で降りてすぐ右側
 タイ子 わあ
 しま子 ここ、ぜ〜んぶ、アクセサリー。リボンはこっち！
 タイ子 かわいい
 しま子 タイ子は、ピンクが似合うかなあ
 タイ子 これも綺麗
 しま子 うん、鏡があるから合わせてみたら？

タイ子、たくさんリボンを合わせ、選んでいる

ヒラメの助やタコ丸も、アクセサリーを見ておどろいたり、帽子やメガネを試したり

タコ丸 これ、乙姫様に似合いそう
 ヒラメの助 本当だ真珠みたいに光ってる
 タコ丸 でも本物の真珠みたいな音がしない
 ヒラメの助 (耳に当てる) 本当だ、音がしない
 しま子 音？
 ヒラメの助 うん。本物の真珠は耳に当てて澄まして聞くと音がするよ
 しま子 なんの音？
 ヒラメの助 貝の聞いた物語の音、貝の中に入ってきた砂粒や寄生虫の物語
 しま子 へえ、どんな物語なんだろう
 ヒラメの助 いろいろだよ、砂粒は時間の流れを歌にしたりするし、寄生虫はクジラの夢を見たりする

タイ子 ねえねえ、これ、クラゲみたいで綺麗じゃない？
 タコ丸 ひらひらしていて透明でオキクラゲみたいだ
 しま子 うん、すごく綺麗
 タイ子 これは何から出来ているの？もしかして、本当のクラゲから？毒は大丈夫なの？
 しま子 これはクラゲからではないのよ、これは布。だから毒は大丈夫
 タイ子 布？
 しま子 そう、洋服も布、ハンカチも布
 タコ丸 ねえ、これはアマクサクラゲ、こっちはムラサキクラゲ！
 ヒラメの助 これはヒトデみたいで、これなんかワカメだ！
 タイ子 これぜんぶ布？
 ヒラメの助 これ、クマノミみたいにシマシマだ (シマシマのネクタイをしている)
 タコ丸 ハコフグみたいな水玉模様 (水玉の帽子をかぶっている)
 タイ子 ハコフグ？毒は大丈夫なの？
 しま子 布だから大丈夫
 タイ子 布・・・
 しま子 うん
 タイ子 ねえ、布から音がしない
 しま子 音？

みんなそれぞれ耳にあてる

タイ子 シーンとしてる
 タコ丸 本当だ何も喋らない
 タイ子 なんでだろう、同じ布でもしま子のリボンからは声がある
 しま子 え？ここから声
 タイ子 うん、たくさん喋ってる。友達と行った遊園地のこと、雨の中、自転車で帰ったこと
 タイ子 でも、このリボン達は静か
 タコ丸 待って！少しだけ声がある、小さいけど、よく聞くとわかるよ
 亀 リボンの思い出ですね
 しま子 思い出？

亀 かすかに聞こえるのは化学繊維達が聞いたリボン工場の思い出です
 しま子は遊園地にそのリボンしていききましたね？
 しま子 していった！引っ越しが決まって、最後の思い出に仲よし4人組で遊園地に行っただの
 亀 雨の中、自転車に乗りましたね
 しま子 帰り道自転車で、みんなと別れて寂しくなって、泣いたら雨が降ってきた。
 それをリボンが言ってるの？
 タコ丸 うん、他にもいろいろ言ってるよ
 しま子 そうなんだ
 タイ子 でもまだこっちのリボン達には思い出がないのね・・・オキクラゲ、とっても綺麗だけど、まだ声がとても小さい
 しま子 まだまだこれからなんだね
 タイ子 わたし、これにする。それでこの子に喋りたくなる思い出をたくさん作ってあげる

しま子、タイ子の頭にリボンをつける。

しま子 すごくかわいい！似合っているよ
 タイ子 ありがとう！

しま子 お腹も空いてきたんじゃない？ヒラメの助のリクエスト、食べ放題に行こう！

<食べ放題のお店>

しま子 ここは、90分間食べ放題

ヒラメの助、タイ子、タコ丸 わあ！と驚く

しま子 焼肉、お寿司、うどん、サラダ、ポテト、ピザ、アイスクリームやケーキ、これぜんぶ食べ放題！
 ヒラメの助 この丸くていい匂いのは何？
 しま子 それはたこ焼き
 タコ丸 たこ焼き！？
 タイ子 お寿司の上に私の大好きなエビやカニもあるけど、タイもある
 しま子 まあ、そうね。
 ヒラメの助 今から90分？
 しま子 そう、席について、お店の人に注文してから90分。でもいつも90分なんてとても食べ続けられないの。
 私は、ピザやスパゲッティ、うどんを最初に食べたくなっちゃうんだけど、そうじゃなくてお肉を食べなさいってお母さんに言われる
 ヒラメの助 どうして？
 しま子 もったいないからだって
 ヒラメの助 もったいない？
 しま子 炭水化物でお腹をいっぱいにしちゃうと元がとれないって

タイ子、アイスクリームやケーキを持ってくる

タイ子　　ねえねえ、アイスの種類がたくさん！
 しま子　　あ！それも怒られるやつだ、最初からデザートはダメよって
 タイ子　　そうなの？
 しま子　　順番があるの

タコ丸、ポテトサラダに焼きそばや、から揚げ、フルーツを同じお皿に盛りだくさん持ってくる

タコ丸　　みてみて、いっぱい乗せちゃった
 しま子　　それもダメ、お皿の盛り付けは美しく、自分の食べられるぶんだけってお母さんに
 言われちゃう
 タコ丸　　美しく？
 しま子　　そう、ぐちゃぐちゃじゃあ、お里が知れるって
 ヒラメの助　いろいろルールがあって大変だねえ
 しま子　　そうなのいろいろ面倒なの・・・まあ、でも今日はいいか！順番も、盛り方も全部
 無視して好きなように好きなだけ食べちゃおう！
 ヒラメの助　好きなように
 タコ丸　　好きなだけ
 タイ子　　食べちゃおう！

4人食べ始める

ヒラメの助　海じゃあこんなにたくさんの種類のものをいっぺんに食べるなんてなかなかないよ
 タイ子　　ねえ見て、あの人どんどん太っていく
 タコ丸　　あの人、食べているのに痩せていく
 しま子　　ええ？
 タイ子　　あの人、太りすぎて風船みたい
 タコ丸　　あの方は、まるで針金だ
 しま子　　どの方？
 亀　　しま子さんには太ったり痩せたりは見えないんです、人間の食の欲望です
 しま子　　欲望？
 亀　　食べる喜びは私たちも人間も同じです。でも生きるために必要な量を食べれば満足する私たちとは違い、人間は空腹でなくとも食べるんです。
 例えばあの風船のように見える人、彼は、腹8分目に食べて健康に過ごすことを忘れて、食べ物が有り余る程あるのを良いことに、欲しいままに食べているんです。それからあの針金のように見える人、あの方は始終ダイエットのことばかり考えていて、食べていても、カロリーを気にしすぎて明日は食べないようにしなきゃとか、罪悪感でいっぱいなんです。

風船男 ビールお代わりしてもいいかな？
 針金女 またあ？まあ私が運転だからいいけどさあ
 風船男 すみませーん、お代わりお願いします！
 針金女 でもあんまり飲み過ぎないようにしてね
 風船男 明日休みだからね
 針金女 休みが二日酔いで潰れるの嫌じゃない？
 風船男 明日なんかあるの？
 針金女 明日は午前中ジム行って、午後はセミナー
 風船男 忙しいね、休みなのに詰め込みすぎじゃない？
 針金女 そう？
 風船男 あ、そうだ、見て（携帯電話を見せる）ここ駅前に出来たラーメン屋。杉崎さんが
 インスタに載せててうまかったって、確かにうまそう
 針金女 食べ放題食べてる最中なのに、よくラーメンが美味しそうに見えるね
 風船男 やっぱり麺は太めの縮れ麺だよなあ
 針金女 杉崎さんといえば奥さん、だいぶ太ったよね
 風船男 程よい弾力と、スープに絡んだあの感じ
 針金女 引っ越してきた頃は細かったのに
 風船男 細麺が好きって人もいるしね。ラーメンって、好みが分かれるけど俺は断然、濃厚
 味噌かとんこつ
 針金女 あれはストレスよ、ストレスで食べちゃうの
 風船男 とろけるぐらいの厚切りチャーシューは必須で
 針金女 下の子が今3歳くらい？なかなか夜寝てくれないんだって
 風船男 チャーシューの理想はラーメンの上に布団のようにしいてあって
 針金女 布団に寝せても動き回ったりお喋りしたり、テンションが高くなってなかなか
 風船男 あれはテンションあがるよなあ
 針金女 ほら、この間、夜中の一時くらいにエンジン音がして、こんな夜遅くどこいくんだ
 ろうって話してたでしょ
 風船男 ああ。煮卵もできれば欲しいなあ
 針金女 あれはね、下の子、車に乗せて、ドライブしてるの。チャイルドシートでしっかり
 固定して、車を走らせると寝るんだって。車の揺れがちょうどいいんだって
 風船男 ちょうどよく半熟な黄身にスープが染み込んで
 針金女 だから奥さん、夜中に近所をぐるぐるドライブ・・・
 風船男 ぐるぐる？
 針金女 そう。それでぐっすり寝たら、引き返して、そおっと運んで布団に寝かすんだって。
 大変よねえ、だから奥さん、いつも角の自動販売機で栄養ドリンクを買ってるの。
 栄養ドリンクでどんどん太って行くんだけど、飲まないとやってられないの
 風船男 ご飯、お代わりもらってくる

亀 話しているようで話していませんね
 タイ子 話していないようで話しているのかも
 タコ丸 僕にはちょっと難しいかも
 ヒラメの助 もう、おれ、お腹いっぱい！
 しま子 もう？

ヒラメの助 うん、もう食べられない
 しま子 デザートは？
 ヒラメの助 人間みたいに別腹がないんだ
 しま子 そう？
 タコ丸 僕、なんだか少し疲れちゃった（手を噛む）
 タイ子 あ！タコ丸！手を噛んじゃだめ！
 タコ丸 あ・・
 タイ子 タコはね、ストレスを感じると手を噛んじゃうの、タコ丸のおじさんは蛸壺に閉じ込められた時にヒステリーをおこして自分の足を一本食べちゃったの
 しま子 自分の足を？
 タイ子 タコの足は敵に襲われて切れたとしても、また生えてくるんだけど、ヒステリーおこして自分で噛みちぎった場合は二度と生えてこないの
 しま子 へえ！
 タイ子 だから、タコ丸、気をつけて
 タコ丸 でも僕、なんだか疲れちゃったんだ・・
 しま子 わかった、ちょっと休もう。うちに来ない？私の部屋でゆっくり休むといいよ。みんなも。亀さん、私の家に行ける？
 亀 はい、かしこまりました

亀、3人を背中に乗せる

しま子 ねえ、ちょっと気になってたんだけど、昔話の浦島太郎は三年経って帰ってきたら三百年経ってて、自分の家も親族も跡形もなく消えていたんだよね。
 私が竜宮城にいたのは3週間くらい？それだとこっちの世界はどれくらい時間が経ってるの？
 お父さんやお母さんは大丈夫？弟がおじさんになってたりしない？
 亀 それは大丈夫です
 しま子 本当？
 亀 そこは乙姫様の采配でどうにでもなるのです
 しま子 乙姫様が決めてるの？
 亀 しま子さんが戻ってきたのは、あの日、私を助けてくれた日の同じ時刻です。だからしま子さんのご家族に何も変わりがない上、しま子さんが3週間も留守にしたことにはなっていないのです。
 しま子 そうなんだ！じゃあ、搜索願いが出たり、大騒ぎになったりもしてないのね！
 亀 なっていません
 しま子 ちょっと残念な気もするけどよかった。でもどうして浦島太郎の時は時間を進ませたの？
 亀 それは乙姫様が・・、乙姫様と太郎様は・・実は・・
 しま子 え？なにになに？
 亀 私の口からは・・とても・・。乙姫様に聞いてください
 しま子 ええ！聞きたい！
 亀 ほら、着きましたよ

<しま子の部屋>

しま子 お母さん、パートからまだ帰ってないみたい。
私の部屋にどうぞ。今、お茶持ってくるから。タコ丸、ベッドで休んで！

タコ丸はしま子のベッドに横になる
ヒラメの助、タイ子は座って部屋を見渡す

ヒラメの助 人間の部屋
タイ子 しま子の部屋
ヒラメの助 夜はここで寝て
タイ子 朝はここで起きる
ヒラメの助 ここで勉強をして
タイ子 ここで漫画を読む
ヒラメの助 お菓子を食べたり
タイ子 長電話したり
ヒラメの助 音楽を聴いたり
タイ子 鏡を見たり
ヒラメの助 ちらかしたり
タイ子 掃除したり
ヒラメの助 一人で泣いたり
タイ子 一人で怒ったり
ヒラメの助 写真を飾ったり
タイ子 写真をはがしたり
ヒラメの助 夜中に手紙を書いて
タイ子 朝それを捨てたり
ヒラメの助 思い出し笑いをしたり
タイ子 妄想が止まらなくなったり
ヒラメの助 ここから出かけて
タイ子 ここに帰る
ヒラメの助 買ったものを並べたり
タイ子 いらぬものを捨てたり
ヒラメの助 宝物をタンスの奥にしまって
タイ子 そのまま忘れてしまったり
ヒラメの助 人間の部屋
タイ子 しま子の部屋
ヒラメの助 夜はここで寝て
タイ子 朝はここで起きる

<スカイツリー>

しま子 スカイツリーは634メートル、この展望台は450メートル。
 タイ子 たかーい！
 ヒラメの助 ビルや車があんなに小さく見えるよ
 タコ丸 海だ！小さい
 しま子 あれは東京湾ね
 タコ丸 東京湾？海じゃないの？
 しま子 海。東京湾は人間のつけた名前
 タコ丸 海に名前を付けたんだ
 しま子 そうみたい
 タコ丸 どうして？
 しま子 わからないけど、便利だから？じゃないかなあ
 タコ丸 それにしても随分小さい・・・、僕たちの海はあんなに小さいの？
 しま子 遠いからよ。海は本当は大きいよ
 タコ丸 でも、空はこんなに大きのにそれに比べたら小さいね
 しま子 それは、空に比べたら
 タコ丸 空はどこまであるの？
 しま子 それは私もわからない。きっと大人にもわからないんじゃないかなあ
 タコ丸 ねえ、あっちの空が赤いのはなんで？燃えているの？
 しま子 あれは夕焼け
 タコ丸 夕焼け？
 しま子 沈む前のお日様はあんなふうになる
 タコ丸 綺麗だね
 しま子 うん、綺麗。海の中だと夕焼けはないの？
 タコ丸 僕、海の中から水面を見上げて、赤くキラキラしてるのを見たことあるよ
 なんだろうと思って水面まで行って、その時、鳥に会ったんだ
 しま子 鳥に？
 タコ丸 シベリアから日本に向かう途中だって言ってたよ
 亀 渡り鳥ですね。食料や子育てのために海を越えて移動するんです
 タコ丸 僕、約束したんだ。また通る時に話を聞かせてくれるって。遠い空がどうなっ
 ているのか教えてくれるって
 タイ子 タコ丸は、その鳥のことが好きなのよ
 しま子 好き？
 ヒラメの助 いつもそのことばかり話すんだ
 タイ子 輝くような琥珀色の羽根に、漆黒の澄んだ目
 ヒラメの助 何回もその鳥の話を嬉しそうに話すんだ
 タコ丸 だって本当に約束したんだ、今度会う時はって
 タイ子 今度会うことなんてある？
 タコ丸 ないの？
 タイ子 また会えるなんて確率低いんじゃない？

タコ丸 手を噛む

ヒラメの助 タコ丸、手を噛んじゃだめだよ

タコ丸 あ・・

亀 渡り鳥でしたら、また引き返すでしょうし、会えることだってあるかもしれませんよ

タコ丸 本当？

亀 はい

タコ丸 僕、その鳥さんに空に連れて行ってもらうんだ

しま子 空まで行ってどうするの？

タコ丸 どうもしないよ、ただ行くんだよ

しま子 ただ、行くの？

タコ丸 ただ行って、空に来てるんだって思うんだ

渡り鳥達、喋りながら（鳴きながら）くる

「もう少し、がんばろう」「前へ前へ」「疲れた」「がんばれ」など口々に
いろいろな事を話しながら

タコ丸 あれ？僕と約束した鳥はどれだろう？君？

渡り鳥 なんのこと？

タコ丸 君だっけ？

渡り鳥 知らないわ

タコ丸 僕を覚えていない？

渡り鳥 覚えてない

渡り鳥に取り囲まれるタコ丸

手を噛み始める

しま子 タコ丸！手を噛まないで

タコ丸 誰？ねえ、僕と約束したのは誰？

渡り鳥 約束してないわ

タコ丸 君じゃない？

渡り鳥 私じゃないわ

タコ丸 空に連れて行って

渡り鳥 連れて行けないよ

タコ丸 どうして？

渡り鳥 だって君はタコでしょ？

しま子 タコ丸！手を噛んじゃだめ

そのうちに渡り鳥達がタコ丸を連れていく

渡り鳥 そんなに言うんなら連れて行ってあげる

タコ丸 わー、本当？僕を連れて飛べる？

渡り鳥　　私達の旅に連れて行ってあげる

亀　　タコ丸さん！ダメです、行っちゃだめです！

ヒラメの助、タイ子　　タコ丸～！

しま子　　タコ丸～行かないで！

タコ丸、渡り鳥と行ってしまおう

しま子　　どうしよう、行っちゃった

ヒラメの助　タコ丸はどうなるの？

タイ子　　タコ丸と、もう会えないの？

亀　　渡り鳥ですから、また鳥達がここを通る時、タコ丸さんも一緒に帰ってくるかもしれませんが

ヒラメの助　また通る時？

タイ子　　それってどれくらい先なの？

亀　　半年後・・・くらいでしょうか

しま子　　半年？

タイ子　　そんなにかかるの？

亀　　はい

ヒラメの助　そんなに待てないよ

タイ子　　どうしよう・・・

亀　　半年も、こちらで生活するのは大変ですよ

ヒラメの助　俺、もう帰りたい

タイ子　　私も。お母さんに会いたい

ヒラメの助　俺も、やっぱり海がいい

しま子　　タコ丸はどうするの？

ヒラメの助　そうだけど・・・

タイ子　　お母さーん

亀　　方法がない事はないです

しま子　　え？

亀　　玉手箱を使うのです

しま子　　玉手箱を？

亀　　煙を少しだけ出して、半年進ませてしまうのです

しま子　　半年？そんなことできるの？

亀　　出来ます

しま子　　半年進ませたら、私はどうなるの？

亀　　半年、この世界にいなかったことになります

しま子　　それは家族がすごく心配するんじゃないかなあ

亀　　そうですねえ

しま子　　どうしよう・・・

亀　　それに、半年後、タコ丸さんがここに戻るというのも確実ではありませんしね

ヒラメの助　どういうこと？

亀　　飛んでる途中で海に落ちてしまって一人で戻っている可能性も、山で落ちて迷子に

なる可能性も。もっとひどいのは、お祭りに落ちて、たこ焼きになる可能性も

しま子、タイ子、ヒラメの助 え～！

その時、琥珀色の羽の鳥に乗って、タコ丸が引き返してくる

しま子 タコ丸！

ヒラメの助 戻ってきたんだね！

タイ子 よかった！

亀 タコ丸さん、その手

タコ丸 僕、空、最初は楽しかったんだけどだんだん怖くなって、気が付いたら手が一本なくなっちゃった

しま子 ええ！

タコ丸 でもいいんだ。海の上まで行った時、海に帰りたかって思ったんだ。そしたら、前に会ったこの鳥さんが来て、僕を助けてくれたんだよ

ヒラメの助 でも、手が・・・

タコ丸 僕のおじさんも一本なかったけど、まだ七本あるだろう？っていつも笑ってたんだよ。僕はそれがカッコいいなって思ったこともある。それに空に行ったことのあるタコなんて僕くらいでしょう？

しま子 そうだけど・・・

タイ子 あんまりわかんないね、一本足りなくても

タコ丸 そう？

しま子 うーん

ヒラメの助 じゃあ、僕のこのネクタイをあげるよ。8本目みたいじゃないかな？

タコ丸 本当？

タイ子 ほんとだ、前より素敵

タコ丸 じゃあ、僕はこの帽子をあげる

ヒラメの助 本当？それ、カッコいいなって思ってたんだ

タコ丸 僕より似合うね

亀 さてと、皆さんどうします？

しま子 え？

亀 たまてばこをしま子さんに残して帰りますか？持って帰りますか？

一同 ……

亀 人間の世界はどうでしたか？しま子さんは安心してこれからも暮らせると思えますか？

タイ子 ……人間の世界も色々大変そうなことはあったけど

タコ丸 うん。僕なんて手もなくなって

ヒラメの助 でも、大変そうだけどやっぱりここは、しま子の世界だからね

タコ丸 うん、海が僕たちの世界だったように

タイ子 そう、海が私たちの場所だった

ヒラメの助 しま子はここで、玉手箱がなくってもやっていかないとね

亀 はい、私もそう思います。

しま子 じゃあ・・・
亀 玉手箱は持って帰ります
しま子 よかったあ！
亀 おばあさんにならずにすみませぬ
しま子 そうだ！乙姫様と浦島太郎の秘密を教えてくれない？
亀 それはまたいつか
しま子 いつかっていつ？また皆に会えるの？
亀 また私がプラスチックにつかまってたら助けてください
しま子 えー！つかまらないで！
亀 それじゃあ、皆さん帰りますよ
タイ子 しまこー、またね！
ヒラメの助 元気で暮らしてね！
タコ丸 バイバーイ！
しま子 バイバーイ！

乙姫様と浦島太郎の物語は皆が自分で考えてみてね